

令和 3 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属大塚特別支援学校	校長名	川間 健之介
幼児・児童・生徒数（R4.3.1 現在）	72	学級数	13

2 教育目標等	
① 学校教育目標	<p>1 人と共に様々な活動に参加する中で、本人の意思や願いを表明・発信する力や共感する態度を身につける。</p> <p>2 主体的に生活（「くらし」「学び」「働く」「余暇」）に向かう力を身につける。</p> <p>3 生活を豊かにするために必要な知識・技能とそれらを統合し、よりよく問題解決する力を身につける。</p>
② 学校経営方針	<p>附属学校教育局の掲げる三つの教育拠点構想を学校運営の柱とし、知的障害教育の拠点としての自覚と使命を持って教育・研究を進める。</p> <p>1 学校研究の成果として得られた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・実践・評価スケジュールを運用し、「個」に応じた質の高い教育実践を行う。</p> <p>2 新学習指導要領への対応、新たな研究活動や教育課程、学校の在り方について検討・実践する。</p>
③ 重点目標	<p>1 先導的教育拠点：カリキュラムマネジメントの推進。知的障害教育における教科指導、SDGs の実践研究。ICT ツールや活用方法の開発・発信。</p> <p>2 教師教育拠点：知的障害教育の授業力と専門性の教化。インクルーシブ社会に貢献する教師教育の推進。</p> <p>3 国際教育拠点：知的障害教育における国際理解教育を推進。海外の特別支援学校との遠隔支援による研究交流。</p> <p>4 将来構想の検討：附属学校としての本校の在り方を検討。働き方改革について検討・実践。</p>
④前年度（令和 2 年度）の成果と課題	<p>1 先導的教育拠点：学校研究ではカリキュラム運用プロセスの再確認、「学習内容表」の見直しに取り組み、カリキュラムマネジメントの推進、新学習指導要領に対応した知的障害教育における教科指導について成果を得た。インクルーシブ教育では対面での交流活動は難しかったが ICT を活用し各学部が充実した活動を行った。ICT ツールとその活用方法等、ホームページを活用し定期的に発信した。高等部が SDGs の実践研究に取り組み成果を発信した。</p> <p>2 教師教育拠点：教育実習、介護等体験は筑波大学をはじめ各大学と連携し感染症の状況に配慮しながら実施した。インクルーシブ教育実践のための教員資質向上プログラムについて実践をまとめた。</p> <p>3 国際教育拠点：全学部 10 回の ALT との学習を実施した。成果として学習ビデオを作成し、校内の生徒間交流、国際交流に活用できた。</p> <p>4 将来構想の検討：教育課程研究・共同研究、校内システム、校内人事に関するアイデアをまとめた。働き方改革について積極的に取り組んだ。今後も会議運営の工夫、行事の精選について検討する。</p>

3 重点目標達成についての総括的評価

- 1 先導的教育拠点：(1) 新学習指導要領に対応した知的障害教育における教科指導の実践研究を国語、算数・数学を中心に行い、成果を研究協議会や書籍等で発信した。(2) 小中高の連携という観点から個別の指導計画等の書式の統一に向け、さらに検討する必要がある。
- 2 教師教育拠点：(1) 新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら従来通りの教育実習を実施することができた。(2) 免許状更新講習、公開講座、国立特別支援教育総合研究所実地研修などをオンラインで開催することができた。
- 3 国際教育拠点：(1) 全ての学部の幼児・児童・生徒が年間を通して ALT との学習活動に取り組むことができた。(2) コロナ禍で海外との交流先を見つけることは困難だったが、シンガポール、中国広州の日本人学校の児童との交流、北京日本人学校の教員に対するオンラインでの遠隔指導を行なった。
- 4 将来構想等：(1) 働き方改革については効率的な会議運営の工夫をして会議時間の短縮を図った。さらに業務内容や行事の精選、仕事の効率化を検討する必要がある。

4 令和4年度の学校課題

- 1 知的障害教育における教科教育の実践研究を推進する。(先導的教育拠点 / 国際教育拠点)
- 2 知的障害教育の授業力と専門性の向上を図る。(教師教育拠点)
- 3 働き方改革を進め、職場の健康リスクの低減を図る。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- ①知的障害教育における教科教育・自立活動の実践研究を行う。
- ②カリキュラムマネジメントを推進する。
- ③インクルーシブ教育を実践する。
- ④ICT ツールの活用と環境整備を行う。
- ⑤知的障害教育における外国語教育を推進する。
- ⑥海外の特別支援学校との研究交流を推進する。
- ⑦知的障害教育の授業力と専門性の向上を図る。
- ⑧インクルーシブ社会に貢献する教師教育を推進する。
- ⑨業務内容の削減や行事の精選、仕事の効率化等について検討、実践する。
- ⑩効率的な会議運営を行うとともに全校で諸課題の解決に取り組む。

6 成果物一覧 (出版物・紀要・書籍等)

- ・「オンラインとオフラインで考える特別支援教育」明治図書 (日常生活の指導)
 - ・「ICT ×特別支援 GIGA スクールに対応したタブレット活用」明治図書
 - ・「学びに凸凹のある子が輝くデジタル時代の教育支援ガイド 子ども・保護者・教師からの100の提言」朝日新聞社
 - ・「今すぐ使える！特別支援教育 音声ペン活用教材 40 教科学習・自立活動で子どもたちの読む・聞く・話すをサポート」合同出版
 - ・『発達心理学研究 2021, 第3巻 第3号』「知的障害生徒が教室談話に参加する過程：社会文化的アプローチから」
 - ・『行動分析学研究 2021vol.36 no.1』特別支援学校に在籍する ASD と知的障害を有する児童の排尿・排便の確立のための保護者支援の検討
 - ・『特別支援教育の実践情報 2021.12-1月号』知的障害のある子への教科指導がもっとうまくいく！
 - ・『実践みんなの特別支援教育 2022.4月号』知的障害特別支援教育における国・算・数の授業づくりと学習評価
 - ・第66集研究紀要 (知的障害教育研究協議会：知的障害教育における国語の授業づくりと評価)
 - ・日本特殊教育学会第59回大会 研究委員会企画シンポジウム：1 教育公演：1 自主シンポジウム：2
- 研究発表：9

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 3 年度

学校名

筑波大学附属大塚特別支援学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-2	視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ HP や書籍、学術団体での発表等、実践の成果を積極的に発信した。 ・ 校内分掌の ICT 教育および情報環境担当を中心に I C T ツールの活用について研修を重ね、校内に伝達した。 ・ 企業や他の大学の研究者と交流し、アプリの活用について情報交換を行なった。
1-1-4	個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補足的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、「個」に応じた教育実践ができるようにした。また書式を統一や評価の時期について学校全体で検討を重ね、共通認識を得た。
1-1-8	学習指導要領等の基準にのっとり、児童生徒の発達段階に即した指導に関する状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究部を中心として、新学習指導要領に基づいた教科指導の研究に取り組んだ。
2-1-5	適切な勤労観・職業観など主体的に進路を選択する能力・態度の育成のための指導（キャリア教育等）の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部で年間行事計画、生活学習指導計画に適時キャリア教育の内容を盛り込み指導にあたった。 ・ 中学部・高等部ではより地域と関わるキャリア学習を行った。（地域の公的機関や企業での体験等）
3-2-4	豊かな人間関係づくりに向けた指導の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の指導計画に位置付け、日々の授業実践で指導を積み重ねた。 ・ 高等部では附属学校教育局での販売活動、中学部では中高合同で保護者向けの販売活動を行った。
4-1-1	児童生徒を対象とする保健（薬物乱用防止、心のケア等を含む）に関する体制整備や指導・相談の実施の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の幼児児童生徒の心と身体の健康管理について、養護教諭、担任が連携して管理にあたった。 ・ 月 1 回の保健・食育指導「スマイル」の時間を活用して指導した。 ・ 担任からの「健康・保健・衛生」に関する報告連絡を密に行った。
5-1-3	法定の学校安全計画や、学校防災計画等の作成・実施、体制整備の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通して定期的にミニ避難訓練、大規模避難訓練を実施した。 ・ 防犯訓練を実施した。 ・ 警察やスクールサポーターとの連携体制を継続し、幼児・児童・生徒の健全育成や安全について連絡を取り合った。

7-1-3	職員会議等の運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ・会議設定時間の見直し、効率的な会議の進め方の工夫を行い、開始・終了時刻の徹底に取り組んだ。 ・情報環境委員会の指導のもとに、教育情報を一元管理するシステムを構築、推進した。 ・情報化、効率化の体制を構築し、情報管理、情報共有に関するマニュアルを作成した。
8-1-1	授業研究の継続的实施など、授業改善の取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各部とも学期に1回の研究授業を実施した。 ・授業づくり、授業改善を通して教材・教具の開発と活用状況の検証に取り組んだ。 ・取り組んだ成果を論文発表、学会での発表などを通して、広く内外に発信した。
10-1-1	学校に関する様々な情報の提供状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育局および本校のホームページの刷新及び更新頻度を上げるとともに、学校要覧、各部案内パンフレット等の刷新を図り情報発信を進めた。 ・各学部、年3回以上の学校説明会を開催した。
14-1-3	先導的教育研究	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で「インクルーシブ教育の推進」「ICTツールの開発と活用」「ミライの体育館」のコンテンツの開発と実践等を行った。 ・各部で取り組んできた交流及び共同学習を継続・発展、内容の充実に努めた。 ・居住地校交流はコロナ禍のため実施できなかった。